

令和7年度まちづくりを考える懇談会

「まちづくりを考える懇談会」は中標津町をより良く、住み続けたいまちにするため「こうなればいいな」「こんなことしたいな」と思うことを、町長と直接話し合う場として毎年開催しています。

令和7年度の「まちづくりを考える懇談会」は下記の3回開催し、ファシリテーターが懇談会を進行しました。

日 時	場 所
9月24日（水）13時30分	総合文化会館 第2研修室
9月24日（水）19時30分	総合文化会館 第2研修室
9月25日（木）19時30分	計根別交流センター

●ファシリテーターが進行した懇談会の流れ

ファシリテーターが懇談会を進行することで、みなさんのご意見やご要望にその場で町長が回答する一問一答方式ではなく、町民のみなさん同士も含めてまちづくりについて「話し合う」懇談会を開催しました。

参加者のみなさんから自由に、行政に対するご意見やご要望を承り、その意見に対してほかの参加者の考えを聞くことにより、共感があったり、異なる意見があったり、解決策を考えたり、みなさんで話し合うことができました。

流れ1. オリエンテーション

開会 ～ ファシリテーター紹介 ～ ファシリテーター自己紹介（グラフィッカー紹介）
～懇談会の流れを説明 ～ アイスブレイク ～ 町長あいさつ

ファシリテーター：会議などの場において話し合いを促進する進行役

グラフィッカー：話し合いを文字や絵で描いて見える化することで内容をわかりやすく表現する人

アイスブレイク：「名前、懇談会開催を何で知ったか、中標津町の好きなところ、今の気持ち」を紙に書いてもらい、自己紹介を兼ねて発表してもらいました

はじめに町長より、「中標津町の近況」について、以下のような話がありました。

○人口減少について

- ・中標津町の人口は、現在 22,000 人をきっており、他の地域に比べるとそれほど早いペースではないが減り続けている。
- ・減少の原因の一つとして、出生数の低下や若い世代が他地域へ進学した後戻ってこないことが考えられる。特に女性が戻ってこないケースが多く、町内の 20～30 代の女性の数は男性より 2 割少ない。それが少子化の一因にもなっている。そこを改善していけるよう考えていくと同時に子育てのしやすい環境を作ることが大きな課題である。

○商業力について

- ・中標津町は、商業力が非常に高く、小売・卸売の販売額が道内の町村では第 1 位、市も含めた 179 市町村中では 19 番目である。18 番目は滝川市だが、滝川市の人口は約 4 万人なので中標津町はそのくらいの規模の町の商業レベルだと思って良いと思う。
- ・中標津町は、町民だけでなく周辺の町から買い物に来る要素と、中標津空港（年間約 20 万人が利用）という交通の要所の一つになっている特徴を持った町である。
- ・これらのことから、将来人口が減少していく中で、小さな町が生き残る地域づくりのモデルになるのではないかとということで「中標津モデル」と言われ、最近注目されている。

※中標津モデル：国土舘大学加藤幸治教授が名付けた

町として中心的な機能と、地方へ働きに出るベッドタウンの機能を併せ持ったコンパクトな都市構造と、周辺地域の人々が集まり交流するという特性を持つ

○インフラについて

- ・第 6 期中標津町総合発展計画では、町のインフラ整備は人口 25,000 人規模として作ったものだが、人口の減少により、維持費をどうしていくか、今後公共料金に影響を及ぼすことが考えられる。
- ・病院は基本的に町民が利用するが、“人口が減る”ということは“患者さんが減る”ということになる。そうなると病院の経営は厳しくなり、町の会計からの持ち出しが増加してしまう。そこをどう維持するのか。また、町民のみなさんの健康を守るため、赤字だからといって診療科を減らすということにはならない。様々な病気に対応できる診療科を確実に維持していくことが、非常に大きな命題である。

○働き手（人材）について

- ・全国的にも課題となっている働き手不足に対応するため、町では外国人労働者の雇用促進を進めている。

現在中標津町には約 300 人の外国人が在住していて、日本語学校や IT 専門学校開校も相まって令和 3 年頃と比べて 2.5～3 倍近くに増加している。その方々がアルバイトで飲食店やコンビニで働いたり、建設系の会社にも 1～2 人は働いている。酪農家にはずいぶん前から中国人の実習生を受け入れており、最近は東南アジア系、ベトナム人やインドネシア人が多くなっていると聞いている。

- ・その外国人が、中標津町の地域の産業を支えているという時代になってきている。外国人の雇用がないと成り立たないという事業所が増えていて、日本人の働き手のない職場を外国人が働いてくれるというケースは、今後もっと増えてくるのではないかと考えている。
- ・そのような外国人は、滞在がほぼ5年以内という人が多い。ずっと働き続けるという人はあまり多くない。例えば、単純労働だと5年に一遍して人が代わってもかまわないかもしれないが、技術を習得して片腕になってくれた人たちが5年でいなくなってしまうのは、技術の継承も含めてなかなか難しい話となる。それを何とか変えていこうというのが目下の大きな課題である。

○観光について

- ・この地域は観光目的でたくさん観光客が来るという地域ではない。どうやって観光地としての魅力を作り上げるかというのも、この地域の大きな課題である。
- ・中標津町は人を集める要素がある。しかし周辺の町の人口も減っているので、さらに遠くから来てもらえる方法を考えていかなければならなくなる。そのためにはもっと魅力のある、人を集めるためのいろんな材料がたくさんあることがこの地域に必要なだと考えている。

～今日の懇談会に向けて～

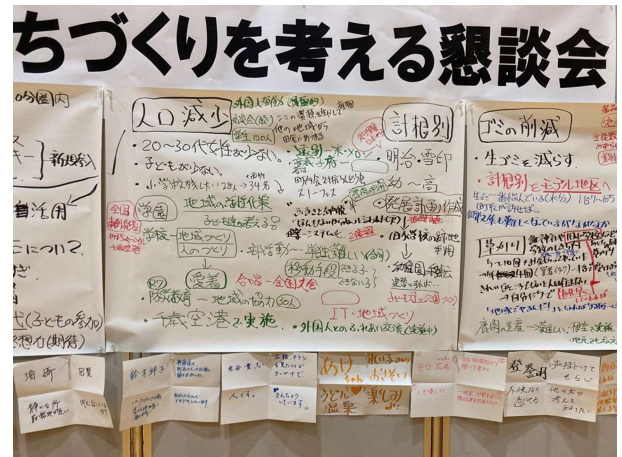
将来に向けて中標津町がしっかり残っていくために何が必要なのか、我々も常日頃考えていますが、ぜひ今日皆様からご意見をいただき、それを町政に反映させて、中標津町らしく継続して生き残れるよう、皆様が楽しく暮らしていけるよう、協力してまちづくりを進めていきたいと考えています。本日はよろしくお願いします。

流れ2. 懇談会

24日の総合文化会館での懇談会では、町長から話のあった「中標津の近況」などもふまえ、参加者のみなさんが「みんなで話し合いたいことや知ってほしいと思うこと」を紙に書いていただきました。その後、一人ずつ紙に書いた意見を発表し、それに対し町長や副町長、教育長がお話させていただき、それについて意見のある方に発言していただきました。

25日の計根別交流センターでの懇談会では、町長から話のあった「中標津町の近況」をもとに、参加者のみなさんから意見などを発言していただきました。





みなさんからの意見はグラフィッカーにより文字として見える化され、行政への意見だけでなく、自分や自分の周りの状況など自由に話をさせていただきました。最後に参加した感想を発表していただき、町長、副町長、教育長からも感想を述べて閉会となりました。

●懇談会の内容

懇談会の意見交換の内容について、その概要をまとめました。

・総合文化会館 令和7年9月24日（水）13:30～ 参加者4名

【町参加者】町長・副町長・教育長・総務部長・政策推進課長・政策推進課主幹・協働推進係

【家庭ごみの回収について】

- 西7条北7丁目付近でゴミ収集車が入らない通りがある。ゴミ収集のルールとして5軒以上でなければ収集しないということはわかっているが、その通りの住人は、収集している通りまでゴミを出しに行くか、週末にまとめて最終処分場（くるっと）まで捨てに行っているようだ。
その通りは建物も古く住んでいる方は高齢者が多い。ゴミ収集車は入れないものだろうか。

副町長

ゴミ収集車のルートは基本的には5軒集まっていれば収集することになっていますが、中標津町は、ステーション方式をとっていないので、収集車のコース上に入っていれば収集することはやぶさかではないと思います。

こちらの担当に伝えておきますし、経過をお伝えできると思いますので、解決できる部分があるのではないかと思います。

【緑町の町営バスの運行ルートについて】

- 緑町のセブンイレブンと福住のところで、町のバスが回って行ってしまう。
緑町は住民も多いが高齢者が多い。高齢者のみの世帯も多く、買い物も不便で、病院や薬を取りに行くことが大変な方もいる。可能であれば、バスのルートを延ばしてくれるといいのだが。

副町長

町営バスについては、10月1日から市街地を西の地区、南の地区、東の地区に分けて3路線で実証運行します。その実証運行期間中にみなさんからご意見ご要望をうかがい、さらに運行ルートの検討をしていくこととしています。

ただ、全ての場所にバスを走らせることはできませんので、そのへんは地域と話し合いをしながら、来年4月以降に向けて検討していきますので、よろしくお願いいたします。

【空き家について】

- 現在、何年も地代を払わずに空き家となっている家が崩れかかっている。解体するには、居住権など法律的な問題を解決するために家主を探し出さなければならないため、解体費用のほかに弁護士費用も時間もかかりとても負担が大きい。
息子の家の隣の家は、すでに30年程前から家主がおらず、地主と相談して解体費は自分が個人的に出す話になった。
ごみやバスの話も出たが、空き家も含めまちづくりを考える中で高齢者のことももっと考えても

らえるよう要望したい。

副町長

空き家対策については、昨年から町で補助金制度を創設し、条件はありますが1戸あたりいくらかという形で補助できるようになりました。担当課にご相談いただければお手伝いできることがあるかと思っています。

これから空き家の調査など繰り返しながら、まずは財産（家屋）を持っている方が最優先になりますので、町としてもいろいろな対策をしていかなければならないと思っています。

●一番困っているのは地主さんであり、莫大な費用がかかっている。

今現在、半分崩れかかっている家があるが、家主の素性がわからず、弁護士さんに調べてもらい居所はつかめたが、建物を放棄してもらうための書類を送っても返ってこない。返ってくるまではもう待つしかない。その間に家が崩れたら、それは誰が責任を負うのかという問題がある。

●空き家について、テレビなどでそういう問題があちこちで起きているのを報道している。地域によっては一定の期間を設けて、それを過ぎたら町で処理をするという地域もあるようだ。そういうものを中標津町でも決めて、暗黙の了解でそうしてもらう他ないのではないか。自分が年を取って管理ができなくなったら自分の家はそうにしてもらっていいと思っている。

●法律に従って動かなければならないので、そんなに簡単なことではない。

副町長

制度的には、「特定空家」を判断する空家対策協議会があります。警察や弁護士の方にも入っていただき町で組織しています。協議会で協議して認定されると、例えば町で強制代執行で解体するということもできますが、問題は、もし持ち主がわかれば、その持ち主に対して費用の請求をすることになるということです。

【ITやパソコンに強い地域おこし協力隊の採用を】

●ITやパソコンに詳しい地域おこし協力隊や町の職員を採用してほしい。ハッカーなどへの対策や対応が町内に広がれば、中標津の発展につながるのではないか。

副町長

ハッカー等への対策は警察庁や国が取り締まりや監視をしていると思います。安全対策として、消費者協会への相談や、不審なメールは開かないなど、町民のみなさん自身の意識向上も重要だと思います。

【道の駅などについて】

●農業試験場の土地に、道の駅や農高のレストラン・花の売り場を作るとともに、残った土地を大手に貸して、収益が上がるようなことを考えたほうがいいと思う。農業試験場の土地は北海道の土地なので、民間には売らないが自治体には売るから自治体が利用を考えてくださいと言っている。せっかく広大な土地なので、自治体として利活用を考えてほしい。

●道の駅はあったらいいなと思う。

町長

現在は北海道の所有なので、町の意見としてはなんともいえません。

教育長

農業高校のレストランや花の売り場を作るという話が出たのでお話をさせていただきます。

高校は教育機関であり、授業内容が教育課程で厳密に決まっています。製造・販売活動に注力するには、学校のカリキュラムを大幅に変更しなくてはなりません。

今度キッチンカー導入の予定があります。そうすると、農業高校で製造した物を今まで以上に町民のみなさんに販売できる機会が増えると思います。どうぞご期待ください。

【廃校の活用について】

●文科省の廃校活用例を参考に、例えば、俵橋小学校は廃校になって数年経過しているが、あの土地を利用しないのであれば、売却するとか、町で良い活用をするなど、内容によっては若者を引き寄せられるのではないかと考えている。

成功事例として、丸瀬布の昆虫館や美幌町の林業館のような施設は人を集めている。中標津町も林業の企業があるので、協力を仰いで林業館のような子どもが遊べる施設を作るということもできるのではないと思う。

今後町内の学校も閉校になっていく可能性もあるため、建物をそのまま使える部分も活かしながら、活用していく案が出てきたら一番いいと思う。

教育長

廃校になった西竹小学校は以前、企業誘致の動きがありましたが、地理的に遠く不便であること、交通の便が悪く輸送コストがかかること、もう一つは建築資材に問題があり使いにくいことから、その話はなくなりました。

俵橋小学校の場合は、土地の半分は寄贈されたものであり、簡単には処分できないと考えています。また、建物は老朽化が著しく、改装に改装を重ねていますので、使用するには建て替えに近い費用がかかるのではないかと思います。

全国的に見ても、廃校を再利用して事業を成功させているのはわずか数%です。90%以上は費用をかけても10年継続できていないのが現実です。費用対効果や将来的な展望を考えると、廃校の再利用は非常に難しいと思っています。

●町のお金だけで進めるのは厳しいし、高いマネジメント能力や商業的センスが必要だと思う。町職員の感覚のみで再利用を考えたら、他の失敗例と同じ結果になる可能性があると思う。廃校の建物の状態にもよるが、本気でやるならば、外部と連携しながら進めないと難しいと思う。

町長

開陽小学校は、キノコの会社が買い取って使っています。町で使い道がない土地はなるべく民間の方に供給して使っていただいた方が町にとっても良いし、民間のためにも良いと考えてはいますが、なかなか一致しません。

利用が進むのであれば、もちろんそうしたいと思います。

【大通りの衰退について】

- 警察署から農業会館までの通りは、空き家やシャッターが閉まった商店が目立ち、衰退がものすごい。観光客はレンタカーを借りなければ、バスを利用してバスターミナルで降りる。バスを降りた瞬間から空き地が目立つ。「空き家が目立つ」「閉まっているシャッターが目立つ」というのは、今後の発展を考える上で難しいと思う。

その一方で、上の国道沿い（バイパス）は、大型店舗が何軒も入ってきている。

この違いの要因の一つとして、上の国道沿いはフリーな用途制限になっていて、下の大通りは商業地域になっていることが大きいと思う。

今後はこの用途制限の問題もふまえ、事業承継も含めた対策を講じていければ、上のまち＝新市街、下のまち＝旧市街とそれぞれの特色を活かしていけば一番良いのではないかなと思う。

町長

おっしゃるとおり、バイパスの整備で車の流れが変わり、駐車場も整備されている大型店に人が集ります。町の中はそういった大規模な展開はしていません。

事業継承の話ですが、飲食系については中標津町は非常に充実しています。閉店した飲食店の味をしっかりと残していくようなスタイルを取れないかということを考えとして持っていますが、小さな衣料品店等はなかなか難しいと思っています。専門展開するようになれば、何か道はあると思うのですが。

- もともと東武が移転する時に、みんな町の人が反対していた。それでも押し切って行ってしまった。

大型店の出店が進んでいるが、一般人はやはり安い方に目が行く。何か事業を起こすとなればもう飲食業くらいしかないと思う。やりたがってる人はけっこういると思う。

- 町中の駐車場の問題は確かにあると思う。町営の駐車場や銀行等の駐車場に止めてから町の中へ移動している。

町長

新しい道ができると、必ず人の流れが変わります。

これを作ったらどうなるんだろう、あれをやったら他のところはどうなるんだろうと、常に考えなければいけません。そこが行政側の課題だと思っています。

【感想】

- いい機会だと思った。初めて参加したが、普段から知り合いの議員さんに話を聞いてもらったり、役場にも行くが、今回は町長、副町長、教育長も来てくれて、こうやって円になって話す機会があったということだけでも良かった。

心残りは、自分は話のプロではないのでちゃんと時間内に言いたいことが伝わっているのかが心配だ。

教育長

貴重な意見を聞かせていただき、ありがとうございます。

私どもが気づかない違う視点で、物を見られていることがよくわかります。

これからも教育の参考にしたいと思います。

副町長

役場の情報がみなさんに届いていないということを感じました。町がしっかり情報を伝えていけばみなさんに理解していただけることもあると思いますので、これからこういう機会を通じてもっとも役場が情報を提供して、みなさんに理解していただけるようになれば良いと思いました。

町長

我々は町民のみなさんに良いことだと思い業務を行っていますが、実際は微妙なズレがあるといつも感じています。そういった修正をする場合にこういう場はすごく良いと思っています。たくさん意見をいただいて、それを我々はしっかり考えて、また、みなさんにしっかりと返していけるかが今後の課題になります。何とか頑張りたいと思います。

【中標津町は貧しいまちではない！】

●私は大阪出身で移住して18年になるが、毎年この町には発見がある。

最近メガソーラーのことが話題にあがるが、すごく良い環境が中標津にはあるのになぜ簡単に土地を売るのか、次の世代への負の遺産になるのに安易にソーラーパネルを設置するのかなと思う。そして中標津は貧しいまちではない。素晴らしい、誇らしい環境がある。それを子どもたちに自信をもって伝えていきたくし教えていきたい。もっと中標津の良さを発見したい。

町長

中標津町の平均世帯収入は、実は札幌市と同じです。収入が高いだけではなくて、若者が集まる場所があれば楽しく住めるという要素は大事です。そこはしっかり取り組んでいかなければならないと思っています。

●テレビなどでも取り上げられているが、人口減少で人が足りないから外国人をという流れはすごく安易だと思うし不安に思う。諸外国でも移民で成功した地域はない。

人口減少をネガティブにとらえて対策を考えるより、子どもたちに「こんないいところあるよ、いい店あるよ」と魅力を伝えていけば、自ずと集まると思う。ポテンシャルのある町だと思う。

●若い世代にとっては出会いが少ないので、都会に流出する原因になっていると思う。

飲みに行くことも難しいし、そういうところがあればいいなと思う。

●出会いについて、農家さんにネットで知り合って結婚した人がいる。

●今はマッチングアプリやネット、SNSで中標津にいて外のつながりが生まれる。

●そこから中標津町に住むことにつながるためには住みよい町にならないと。こんな田舎に来てどうするんだと思われたいような住みよい町に。

●以前住んでいた宮崎でも、外側からは宮崎の魅力を感じているが、地元の大人たちがここには何もないと言う人が多くて、そうすると洗脳みたいに子どももそうってしまう。そして特に目的無く都会に出て行くが、その中の一部は帰ってくる。

地元は魅力もあって素敵なところだと大人の発信者を増やしていく、魅力の洗脳をするといいいのではないかなと思う。

●中標津空港の存在はとても大きいと思う。本州の実家に急いで帰らなければならない時、まず新千歳まで出られる。本州への交通手段としてのメリットはあるが、朝早く出られる東京便がもう1便あると良いと思う。

教育長

以前、全国市町村教育長会議で発表した際に、「役場から空港まで車で信号1つ。東京や札幌行きの飛行機の便がある。町にはケンタッキーやミスタードーナツ、マクドナルドにユニクロがあり、知床や阿寒へは車で1時間半で行ける。」と話したらすごい地域だとかなりの反響がありましたが、地元はそのすごさを普通だと思っています。

中標津町の住みやすさ、自然の豊かさ等を子どもたちに伝えるようにしています。そして「中標津町はいつでもあなたたちのことを待っているからいつか帰ってきてね」という話を子どもたちにするよう先生方に話しています。

【交通を便利にしたい！！】

- 若い人が中標津町に移住しない・できない理由として、交通がすごく不便だということが一つあると思う。例えば、札幌市はバスや電車、地下鉄、レンタサイクル等安く移動できる手段があるが、中標津町にはない。

交通手段がないと夜の世界は狭くなる。お酒を飲んだら車の運転はできないし、まず若者は車を持っていない。歩いて帰れる距離でなければ、タクシーとなるが1,500円～2,000円はかかる。一定の収入のある大人だったら払える金額でも、20代前半を満たない若者には厳しい。

先日、岩谷学園の授業でどうすれば交通が豊かになるか考える機会があり、そこからタクシー事業のサポート、例えば行き先が中標津町だったら、町が料金を9割負担するというような仕組みがあれば良いと思った。観光にも利用できて、空港からレンタカーを借りなくても、中標津町を回れるようにすれば活気も出ると思う。夜の世界は税収がすごく多いので、町が負担した分は税収で回収できるのでないかと思う。

副町長

今、町営バスの路線を市街地を3つに分けて3路線にして便数を増やし、走行時間を短く、出発から24分ぐらいで到着できる路線を10月1日から実証運行します。これがうまく軌道にのれば、日中の不便さは少しずつ解消していけるのではないかと思います。

その実証運行期間中にみなさんからご意見ご要望をうかがい、さらに運行ルートの検討をしていくこととしています。

また、バスは「乗ってもらってなんぼ」で、運営が苦しい経営状態になるのは決して良くありませんが、町が運営するということは、赤字になっていても町民の足として運行していくという考え方でいかなければなりません。せめて町民のみなさんが乗りやすいコースで運行したいと思っています。

夜間についてはなかなか難しく、タクシー会社も運転手がいなくて困っています。その人手不足の中で台数をまんべんなく動かすというのは難しいようです。

- 基本的に病院への運行ですよね。

- 夜にバスを走らせるのは難しい？

副町長

病院をメインにして運行せざるを得ないと思っています。町内のあちこちで乗降調査を行ったところ、最終的な目的地は中標津高校と東武と町立病院で、圧倒的にそこでの乗り降りが多いです。

現在は朝から夕方6時頃までの運行ですが、対応できる事業者が1社しかなく、運転手が不足していることと勤務時間の規則のこともありますので、夜間の運行に関しては厳しいと考えています。

- 学生が住む周辺に集まる場所、飲食店などを作るのはどうか。

何もない田舎の土地で学生たちが住んでいるところに、飲食店ができて、学生の集まる場所ができていき、大きく広がった地域がある。そこでの雇用も増える。

- 住宅街の空き家で飲食店等そういうのができないか。

- キッチンカーで夜だけ集まって出店などいいのでは。

副町長

町のあちこちに飲食店や居酒屋などができています。

新たに飲食業に就く方が多いようですので、そういうことが進んでいくと良いと思います。

【メガソーラーについて】

- メガソーラーの設置は、町に税金が入る以上のデメリットがあると思う。

他の市町村では、規制のガイドラインを作成しているところも増えている。

現在設置が計画されている土地には、釧路湿原にも匹敵する自然があり、ミズナラの大木の群生など、タンチョウが営巣地となり得る場所が含まれている。森が伐採されることにより、熊や鹿などの生息地がなくなり、農地や町に頻繁に出没する可能性も予想される。

例えば、川の源流やサケ・マスが遡上する川の近くにメガソーラーが設置された場合、土砂や有害物質などが流出する可能性もあり、その場合、中標津町だけでなく標津町や別海町など周辺自治体にも被害が及ぶ。

今、業者によっては資金提供するところもあり、土地の売買をめぐって地域住民の間で分断が生じている。ソーラーパネルが設置されることによって地区の中で分断が起きる。非常に悲しいことだし、住みよい町を作っていく上では、絶対に起こってはいけないことだと思う。

中標津の風景は阿蘇のカルデラに負けないとされているが、この自然を未来の人からの借り物と捉え、目先の自分の利益だけではなく、長期的な視点で判断していただきたいと思う。

町長

太陽光発電事業者が安価な土地を選んで来ますが、土地の売買に関しては国が認めています。森林伐採や希少生物の生息、河川への影響については、行政側も懸念を抱いています。

しかし、申請に対して「不許可」とする判断は非常に難しいです。「なぜダメなのか」という明確な理由を証明しなければなりません。希少な生物や天然記念物がいるという確実な証明が必要となります。

- 中標津町としてOKなのかを知りたい。

町として、メガソーラーを受け入れてまちづくりをしていくのか、それとも、自然を残していこうと考えているのか。

- 依橋の住民に土地を売らないかという電話やチラシが頻繁に入っている。それを見て高齢者は終活として安い金額で売ったりする。

メガソーラー設置に反対した人のところへ、釧路の不動産屋が急にアポなしで訪問し、「50万渡すからOKしてくれ」と持ちかけることが、去年から中標津で発生している。土地売買に関して住民間で温度差があり、近所でも仲が悪くなっている。疲弊している。

釧路の問題が注目され業者が動きにくくなったのか、中標津や標茶、根室等周辺の地域に話が来ている。

- 町の規模ではなく道や国が進めている。町が拒否したいとなると、法律に従ってやらなくてはならない。そこで対抗できるものといえば反対活動ぐらいしかない。

- 町で反対するのは限界があり、近隣の市町村全体で反対の方針を示したとしても、法的には設置できてしまう。そこで何ができるのかということを、こういう場で一緒に考えてほしい。

- 国が進めることを町や町民はそのままにしていいていいのか。

- 中標津の森の将来的な変化を見据え、今どう守っていくか、タンチョウのような「天然記念物」の存在を強調した方が、「環境省設定の生き物がいる」というよりも効果的なようだ。その中で北海道として「天然記念物の生息域については不許可とする」という方針を示してくれれば良いと思う。

天然記念物はどこに住んでいるかというような環境現状調査は、業者が主体で行うので、不利なデ

一タが出にくいという信頼性の問題がある。

「巢がある」だけではなく、巢を守る森やエサがとれる自然など、タンチョウが生息できる環境全てが揃っている健全な場所をいかに守れるかということが一番大事だとわかってほしい。

- ニセコの水源地の件もある。自然を守らなくてはいけないことは町民で考えていかななくてはならないと思う。
- 質問だが、土地に対する税が高いと、持ち主は所有するより高く買ってくれる企業に売っていただけなのではないか。

副町長

メガソーラーの業者は、固定資産税評価額がとても安い土地を、通常よりはるかに高い値段で買い取っていると思います。特に、中標津に住んでいない土地所有者にとっては、必要のない土地が高額で売れるなら手放してしまった方が良く考え、手放してしまうと思います。そこは個人の財産なので止めることはできません。個人の財産について、地域住民がどこまで制約できるのか、規制すれば解決と簡単に考えるのではなく、個人の財産と公共の利益のバランスについては議論していかなければならないと思います。

- 釧路湿原は保護団体が土地を買い、永久的に守ろうとしている場所もある。それを他の保護団体でもやっていたらいいのだが、実際は値段がつり上げられてしまい買えないという状態になっている。でも、土地を売る側の人たちに、「金だけではないよね」ということ、何のために買おうとしているのか、売った先に何が起きるのかを知ってもらうことも大事だと思う。

副町長

メガソーラー用地の買い上げに関して、市町村には法律上制約する権限がありません。経済産業省の許可が下りれば、パネル設置は進んでしまいます。地域の反対や、町独自の規制を設けることで設置を阻止することはできる可能性はありますが、その土地を業者に売らせないようにする方法を一番に考えていかなければならないと思います。これら全てが一致しない限り、完璧な規制は難しく、どの市町村もそこが一番難しい課題だと思います。

現状、釧路市や鶴居村の対策も、あくまで設置業者へのお願いの域を出ておらず、「町の方針を守り協力してください」という要請に留まっているのが実情だと思います。

- 畑などでタンチョウをよく見かけるからといって、数が増えているわけではなくて、この地域の自然環境が変化したから。昔は町に出てくる必要がなかったということ。

- 土地所有者が土地を売るのは収入になるからだと思う。

もしも作物を作るのに適した良い土地だったら、自然農法などを取り入れてブランド化した農作物の生産などで収入を図るのはどうか。

中標津は昔は農業の割合が高かったが、気候変化などにより酪農が盛んになったと聞いた。今後も気候が変化していく中で、農業の可能性もあるのではないかと思います。

- 話を聞く中で、メガソーラーによる地域の分断は、賛否の対立だけでなく、これに関して話す機会がないことで、不満が町に向いてるケース等もあると思っていたが、町が同じ方向を向いているということがわかった。他にも同じ思いを持つ人は多くいると思うので、これからどうしていくべきか、一緒に未来を考えるような場ができればいいと思う。

- ちなみに森林環境税は、町で何に使われているのか？

町長

町有林や防風林の維持などに使われています。

- 無理だろうとは思いますが、業者が来てしまうような土地の購入に利用してくれるとわかりやすい税金の使い道だと思うのだが・・・。

【感想】

- 「中標津の良い風景はきっと100年たっても変わらない、守っていききたいね」という意見に反対する人はたぶんいないと思う。必要であれば自分の分野でお手伝いします。
- この町の好きなのところとして「人」と書いた。それをかみしめることのできる1時間半だった。こんなに熱く町のことを語れる町が他にどのくらいあるのかと思った。希望の湧く時間だった。
- 若者のニーズを知ることができて発見があった。環境を整えていくということが、人が増えていく、自然に対してもつながる、そういう気づきがあった。
- 交通手段が良くなったら、改善されるところがいろいろと町に広がるだろうと、今回参加して改めて思った。
- みんな素晴らしい考えを持っておられる。今回この場に地元出身の人があまりいない。
- 景観計画制定から10年、何かピンとこないなと考えていたが、今日話を聞いていると、中標津町が魅力ある町だと思った。楽しい時間だった。

教育長

今日はいろんな方のお話が聞けて、勉強させていただきました。

基本的にここにいる我々はメガソーラー設置に大賛成という人はいませんが、世の中には大賛成という人がたくさんいます。

お金中心の価値観で生きてきた人たちを、自然保護の理念に共感してもらうのは本当に難しい問題だと思いました。

特に教育の場で「自然保護のためにメガソーラーなんか作らないで、今の町の景観を大事にしよう」と教えると、関連事業に関わる方々はすごく辛い思いをします。過去の自衛隊に対する不当な扱いと同じように、特定の価値観や職業を否定し得るデリケートな問題だと私は思っています。

私のこの意見に関しても、みなさんいろいろ考えがあるかもしれませんが、教育という観点でこれを見るとすごい難しいです。どう教えていくか、そんなことを考えながら聞かせていただきました。

ありがとうございました。

副町長

今日はみなさんから熱い意見をいただきました。今後も様々な場面でみなさんからご意見をいただきながら進める必要性を再認識しました。また、行政の情報をみなさんに十分に伝えきれていないために「何をしているかわからない」という状況もあると思いますので、情報提供のあり方を改めて考えさせられたと思っています。

本当に今日はありがとうございました。

町長

みんなで議題を出し合い、それについて意見を出して話し合うようになってから、この懇談会が非常に良いものになりました。これを続けていかなくてはと思います。我々も勉強になりますし、住民のみなさんにも情報を得てもらう場にさせていただいて、盛り上げていきたいと思っています。

今日はどうもありがとうございました。

計根別地区では、はじめに2～3ページの『町長より「中標津町の近況」について』に加えて、以下のような話がありました。

○計根別地区のこと

- ・現在、計根別市街の北側に明治乳業の大型工場が建設中で、雪印中標津工場も新しくラインの増設をする予定で、両方合わせて1,000億円の投資となっています。中標津町は生乳の製品化、処理する量から言えば全国トップなのではないかと言われています。

この工場の完成により多くの人が入り、町として賑わってくるのではないかと思います。

- ・計根別には計根別農業協同組合、計根別学園、幼稚園、そして中標津農業高校があります。近隣には、羅臼高校・標津高校・中標津高校・別海高校があり、中標津支援学校もありますが、15年前に生まれた子どもたちが今年高校に入ったのは300人くらいです。今年生まれた子どもたちが15年後高校に入学する人数は150人くらいしかいません。そういった中で、農業高校のポジションをどうしっかり守っていくか、そして生徒たちを確保できるか、今後の大きな課題となります。学力や職員体制の課題もありますが、それもしっかり受け止めながら発展に向けて頑張っていきたいと思っています。

農業高校にキッチンカーの導入を考えており、学業とのバランスを取りながら、地域の方に支えられながら、地域に根差した高校として今後も存続できるように頑張っていきたいと思っています。

- ・昨年も話しましたが、計根別地域の発展計画的なものを、今後の全体的な枠組みとして作成し、計根別地域を盛り上げる取り組みを進めていきたいと思っています。全体的に人口が減っていく中で地域は大変ですが、計根別はいろんなことが地域で解決できます。これは非常に大切なことで、ぜひこういった仲の良い地域をみなさんで支えながらつながっていく、また発展できるよう、我々も頑張っていきたいと考えています。

【生ごみの減量にむけて】

- 今、家庭用の生ごみを乾燥させる処理機が出ているが、その処理機を購入するにあたって、町からの助成などあったらどうか。個人で利用の際は電気代なども負担になる。生ごみの量を減らすことで町にも貢献していける。『計根別モデル』みたいな形もありではないかと思う。

副町長

行政が抱えるごみ処理の大きな課題の一つは、水分が多く含まれた生ごみの処理です。ごみ処理機は生ごみを大幅に減量できるので、重量計算で決まる処理費用の削減に有効な手段であると考えています。

町で過去にコンポストを推奨した時もありますが、処理機は家庭用だと3～10万円くらいの購入費用がかかると思いますので、町長が許してくれれば助成など検討していきたいと思います。

また計根別では、ごみ収集のステーション方式をモデル地区として実施していただきましたが、中標津市街地では残念ながら進んでいません。ごみ収集については、現在の方法では将来的に限界がくることが予想されるため、ステーション方式を中標津市街地にも広めていけるよう、町内会とも話し合い進めていきたいと思っています。

処理機導入はごみを減らす良い取り組みだと思いますので、これについて話が進んだ時には、間違いなく計根別地区のみなさんにモデル地区として参加していただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

【計根別地区の草刈りについて】

- 今年度計根別地区の草刈りが、従来の町内会請負から町が委託した業者が行うようになった。地元でやったら「町をきれいにしよう」という気持ちから年間5～10回程度実施され、例えば旧計根別小学校跡地横の神社周辺などは、神社祭の前に草刈りをしてきれいにしようと細やかに刈ったりするが、委託業者ではそういう行事などは配慮されず、年に4回、今までの半分くらいしか環境整備がされないということになる。そういう部分を考えると、地元でできるなら地元でやったほうがいいのではないかと思う。

●同志会メンバー

従来、計根別小学校跡地については、町から10万円の予算をもらって、その中で計根別同志会が請け負って草刈りをしていたが、今年は町が一括して業者委託する形に変更されたと思う。

自分が同志会に入った頃は30名位会員がいたが、今は15名に減少し、高齢化が進んでやる人が減ってきたのも事実である。

できれば、春先の早くから刈っていただいて、草が伸びる5月6月あたりにこまめにやっていただけるとありがたい。

副町長

これまで学校関係の草刈りは、市街地の大規模校の一部を除き、主に校務技師や地域の方の協力で実施していましたが、学校間で不平等が生じているという話になり、今年度から町が学校関係の草刈りを一括して業者に委託することになりました。これにより、他の公共施設や計根別地区にも影響が及んでいるのではないかと思います。

町としては、計根別のみなさんに地域振興の補助事業などを活用した活動をこれまでどおり続けていただきまして、今後も連携、協力して取り組んでいただければと思います。

よろしくお願いいたします。

【計根別小学校跡地について】

●計根別小学校跡地だが、町に整備してもらった。

今後この利活用の予定があれば教えてもらいたい。もしなければ、公園だとかそういう活用方法を地域として考えていきたいと思うので、確定ではなくても予定があるのであれば教えてほしい。

町長

計根別幼稚園が古いので、建て直す時はそちらの方へというイメージを確定ではありませんが持っております。

【計根別学園について】

●自分は今 50 歳になるが、小学 6 年の時に計根別に越してきた。転校してきた当時、クラスの人数は小学校で 28 人、中学校で 34 人だったが、今は 20 名以内、1 桁という学年もあり、子ども的人数も減少傾向にある。なんとか学園が存続して欲しいと思う。

教育長

計根別学園については、西竹小、養老牛小の閉校に伴い、周辺の子どもたちが集まり、長らく単式学級を維持してきました。現在は児童数の減少で、一部複式学級になっていますが、何年か後にはまた単式学級になっていくと思います。中標津町の今後の学校配置を考えた際、計根別学園がなくなるということはないと思っていますし、継続的に存続できると思います。むしろ市街地の方が大きく児童数が減少する傾向にありますので、再編について考えなければいけないと思っています。

●計根別学園の状況（教頭先生より）

- ・計根別学園は今年開校 10 周年を迎えますが、現在も全国・全道の自治体から高い注目を集め、遠くは長野県、近隣では大楽毛小中学校などからの視察が続いています。

今年の夏休み中に、埼玉県に住むおばあちゃんから「非常にすばらしい環境でこんな小さな地域の中に農業高校があるということがすごく珍しい。こういう小規模なところで学べて農業も学べる場所に家族で引っ越して孫を通わせたい」という電話をいただきました。そういう方もいるということをぜひ紹介したいと思いました。

- ・学園では、子どもたちや我々教職員も深く地域に関わりながら地域を学び、もっと計根別地区、中標津に愛着や誇りを持てるよう活動をしていて、普段から地域の方々にお世話になっています。

今年 9 月に、防災教育を切り口として炊き出し体験を行いました。学園が避難所となるため、地域の方々と保護者のみなさんに参加協力と呼びかけたところ約 30 名が協力してくださいました。当初予算をとっていませんでしたが、地域の方々が自分事として協力してくださり支援してくださったおかげで実現できました。

- ・学園の生徒は 9 年間を通して地域のことを学習し、その集大成として、地域の活性化策を自らが考える活動をしています。この活動を単なる発表に終わらせるのではなく、本当にこの地域を良くして行こうということを考えて、今後も地域の方に関わっていただきながら学習を進めていきたいと思っています。

- ・生徒数の減少により、部活動の存続がかなり厳しい状況です。
特に野球やバレーなどの団体競技は単独での活動が難しくなっていて、現在は市街地の学校と合同チームを組んで活動しています。合同チームの編成は本当にありがたいです。ただ、交通手段がないと練習に行けないため、保護者の送迎が可能な生徒とそうでない生徒がいるという課題があります。
- ・地域活性化に対する課題に対し、それをただ解消できるよう願っているのではなく、生徒自身がアイデアを出し提案したり、一緒に考えていきたいと生徒たちとも話をしています。リアルに地域に参加していく計根別学園でありたいと思っています。
- 地域づくりの一つとして防災教室を実施したと思うが、その他にも何か具体的に考えているものはあるのか？
- 計根別学園の教頭先生
地域の方との共通の話題として、まず防災教育を行いました。
今考えているのは『計根別や中標津のアピール活動』です。この活動は修学旅行先で毎年行っており、今年は新千歳空港で行いますが、地域の協力を得て実現できている活動です。
今後は、例えば農業高校や農協など地域の様々な機関とコラボしながら、さらに地域活動を展開していきたいと考えています。この活動に対してのご支援に感謝しています。

【産物資源、ふるさと納税について】

- 自分が小学生だった 20～30 年前は、地域の町内会対抗運動会や冬はスノーモービルを使った雪上カーニバルなど地域が賑わうイベントが開催されていたが、現在はイベント開催の大変さや参加者の減少によりイベントが減ってきている。いろんなアイデアを出し合って他地域から人を集めている集落もあるようだ。計根別での産物資源を生かして、また地域の人が参加型になって、いかに集客するかというところがポイントになると思う。
- 中標津町は牛乳の加工量では、たぶん日本一だと言われている。また最近この辺では、羊の飼育や羊肉の生産も増えてきている。この地域には産物資源がけっこうあるのではないかなと思う。それらの資源を活かし、子どもたちも含む地域住民が楽しみながら参加できるイベントがあったら良いと思う。
- 根室市、別海町、白糠町などが 100 億円を超えるふるさと納税を町に活かしていることから、私たちも力入れた方がいいのではないかと知り合いと話した時に「中標津は何もないからね」という返答があった。前向きに地域の資源を活かす取り組みに力を入れるために、町だけではなく企業も参加・協力できるような仕組みを考えた方がいいのではないかなと思う。
- 農高 P T A
農高で作っている製品は非常に人気があり、地域のイベントに参加して販売しているが、生徒数の少なさや授業スケジュール内での生産なので製造個数が非常に少ない。今年も昨年も、メインである学校祭での販売すら断られるほどである。P T A が協力して、レシピを教えてもらい増産することはできませんか？とお願いしたが、「それは農高の製品にならないから駄目だ」と断られた。増産ができないというのが現実。
- 願望だが、鹿肉は野生個体をハンターが捕獲して、加工センターのようなところに持ち込んで加工された物が出回っており、個体や処理時間によって商品として一定性がないと思うが、これを中標

津町のプロジェクトとして町がバックアップして、小鹿の飼育から加工、販売までを行い、スーパーに牛肉、鶏肉、豚肉とそこに並んで鹿肉が出てくるぐらい注目されても良い肉なのではないか。肉だけではなくて皮製品や角の利用もする等、子どもたちの就職の場所に繋がる可能性があると思った。予算はかかるが「鹿肉といえば中標津町」というような、そんなことも面白いのではないかと思った。

町長

人気の高い農業高校の製品をふるさと納税の返礼品にとよくお話いただきますが、授業の一環として製造されているため、現状量産はできない状況です。対応するには考え方を考える必要があると思っています。

エゾシカの供給・販売は難しい課題です。中標津町内でも、建設会社が鹿肉販売を手掛けたり、犬用のエサとして加工し事業化している事業者もいます。

日本人の食習慣において、牛肉、豚肉、鳥肉に代わって鹿肉を普及させることは難しいと思っています。魚とは異なり、肉は飼育の方が良いという方が多く、鹿肉の安定供給と食習慣への浸透には大きな課題があると思っていますが、何とかしたいという気持ちはあります。

【中標津農業高校について】

- 自分は農協の職員だが、農業高校がいろんな活動で大活躍したり、全国大会に出場したりしている一方で、現在実習に使われている牛は3～4頭、古い建物の中で搾乳されている。中標津は酪農の町なのでもう少し搾乳や牛を扱うこと、その充実というのは難しいものなのか。

教育長

農業高校への志望の動機は、酪農関係の子どもが減っているということもあり、酪農よりも多様な体験的学習をしたいという子が増えています。しかし、農業高校ですので、少ない頭数ですが搾乳など実習はしています。ただ、酪農の授業の充実に関する要望を初めて伺ったので、今後教育課程の見直しについて学校に伝えておきます。

根室管内の高校で1番生徒数が多いのは中標津高校、次に根室高校、別海高校と来て、その次が中標津農業高校です。農業高校を地域の学校として残したい、中標津高校と農業高校が両立していけると良いと考えています。

- 自分も農業高校に出入りする立場から、生徒たちが卒業後実家に帰った時に授業の内容をどの程度活用できるのかとすごく思う。
今、農業の現場ではロボット技術などの導入が進んでいるが、生徒たちが最新の技術で実習できる施設を整えてあげられたら良いだろうと思う。
- この地域で農業高校に行きたいという子たちは、将来的に自分の実家の農業を継ぐという子たちがほとんどだと思う。その子たちが、畜産大等に進学しなくても学べるような施設や環境というのが非常に大事になってくるのかなと思う。
- 生徒の学習プログラムの中で発表会がある。地域のまちづくりや活性化等様々なテーマの研究班がある。町のエゾリンドウ栽培やエゾシカ肉を利用した肉まん開発等様々な取り組みをしている。それぞれレベルの高い素晴らしい内容を発表し、選ばれた研究班が地区の代表になり、全道そして全国で発表されるが、本当に素晴らしい内容である。これをより多くの地域の人等に聞いてもらい、生徒たちの努力を知ってもらいたいと思った。

- 農業高校へ進学したい子は、他の市町村にもたくさんいると思う。ただ計根別という立地から遠方からの通学は非常に厳しい。下宿を整備できれば、遠方の地域の子たちも通学できるのにと地域の方々と話すことがある。そこを何か方法があればと思う。
- 生徒の確保という部分で、中標津にある岩谷学園のＩＴ専門学校の酪農ＩＴ学科では、中標津農協の施設や希望農場へ行って実習している。農業高校に施設があつてうまく連携できると、農業高校からＩＴ専門学校の酪農ＩＴコースへ進学しようという子どもたちも出てきて、相互関係ができてくるのではないかとと思う。
- 中標津支援学校には窯業科や木工科があるが、卒業後の就職先が町内にない。支援学校の生徒は、例えば「エサやり」など決まった作業を毎日継続できる生徒がたくさんいるという話を聞いている。支援学校とも連携しながら、酪農の一端を担える生徒を育てれば、現在外国人労働者に託している部分を、支援学校の地元の子どもたちを人材として雇用し地域でやっていけるのではないかとと思う。農業高校、支援学校、岩谷学園など、所属を超えて連携していけば地域としてこの先どんどん広がっていくと思う。

教育長

農業高校・支援学校・ＩＴ専門学校の連携は始まっており、お互いに訪問したり、合同での製品販売等の取り組みが進んでいます。また、お話があつたように、支援学校出身の子たちが、酪農関係の仕事に就くという事例もありますので、それがより進んでいくと良いと思います。

農業高校に、酪農実習のための立派な設備や搾乳の体験ができる施設整備というのは、予算的には正直なところかなり難しいので、教育課程の中で農家への実習を取り入れる等、現場での体験機会を増やすような方法を考えていきたいと思っています。

下宿の件ですが、宿舍を整備して各地から子どもを受け入れるという高校も増えていますが、卒業後は地元に戻る生徒が多いことから、多額の公費投入には慎重な考え方もあります。農業高校は現在、地元の子たちを中心に成り立っていますので、今のところ遠方からの受け入れに関しては考えておりません。計根別地区で下宿運営に協力いただける方がいましたら、生徒が増える可能性はあると思います。

町長

本州は他の地域でも通学可能な距離であるため、町立の高校は２校しかありません。

北海道は広大であるため、町立の高校は多数存在しています。町内に高校がなくなると下宿して他の地域の学校に通わなければならないので、地域で高校を維持しようと努力しています。

農業高校へ通う生徒たちへ町から支援は行っていますが、最近道立高校へも町が支援することも一般的になってきています。これは、地域に人を呼び込むための一つの方法でもあります。その実施については慎重にしなければならぬと思います。

- 人口 605 人の音威子府村では、高校生 114 名が在籍しており、これは村の労働人口のほぼ 1/4 が高校生という状態で、全生徒の約 1/4 にあたる 27 名が道外から入学しており、優秀な生徒たちが来ているようだ。生徒の多くは卒業後に村外へ出て行くので、村の人口自体はそんなに増えてない。それでも、村に高校があること、若い労働人口がいること自体が、非常に村を支えていると町長が話されていた。この視点は、農業高校でも町外からの生徒の受け入れを検討する上で一つの可能性を示すものではないだろうか。
- 農業高校はどこにでもあるので、全国から注目されるような農業高校にいかにするべきかということも考えていただきたい。

音威子府高校は美術芸術に長けているから全国から集まってくる。中標津農業高校も人を惹きつける魅力がないと人は集まらない。過去 300 人だった出生数が去年は 150 人とすでに半分になっているのであれば、15 年後のことを今から考えていくべきだ。

- テレビで見たが、三笠高校のシェフ養成コースのように、農業高校も全国から集まるような専門性の高いコースがあれば良いと思った。例えば食品ビジネスコースはこの地域の特産品であるチーズと肉に特化して徹底的にやるとか。

【外国人との交流について】

- 中標津町の人口は 20 数年後には 15,000 人という推計がある中で、商業を活性化していく対策も一つだが、外国人に労働を委ねるという手段について、外国人との交流を今後どのように町として取り組んでいくのか。

外国人に対して、心理的に抵抗感を持つ日本人も中にはいると思うので、交流ということを町が積極的に取り組むべきではないか。中標津の未来や経済を支えるために、外国人に労働力を託すことを考えるのであれば、外国人との交流を今から町が積極的に取り組んでほしい。

副町長

現在中標津町には I T 専門学校と日本語学校を合わせて学生だけで約 120 人の外国人がいます。また役場には国際交流委員（C I R）が 2 名配置されており、その C I R が中心となって、しるべつとやなかまっぷ等で、外国語や外国人と触れ合ってみようというような内容から身近なことをテーマにした交流会を実施しています。定期的に実施していますので、その中で次は計根別で実施することも可能だと思います。役場の LINE に登録していただきますと、みなさまにお知らせが届きますので、ぜひ積極的に情報を取得して参加していただきたいと思います。

町長

労働力不足を補うため、町では東南アジアを中心に外国人を送り出す機関との話し合いをここ数年実施しております。

受け入れにあたり、過去のような安い労働力という考え方は絶対に避け、中標津町はしっかりと稼げる魅力的な町ということを形作らなければいけません。良い人材に集まってもらい、定着してもらえるように取り組んでいます。

また、今後は定住する外国人が家族を呼び寄せるケースが増えてくると思います。その際、日本語が話せない家族による外国人村化を避けるため、日本のコミュニティの中にしっかり入ってもらい、日本語を覚えてもらうということを含めた取り組みを行い、町民と外国人が共に安心して共生できるまちづくりをしていきたいと考えています。

外国人労働力を期待するということは、町も責任をもって対応していかなければならないと思っています。

【町の LINE について】

- 中標津町の LINE だが、もうちょっと何かシンプルにした方がいいのではないかなと思う。

いろんな情報が流れてくるので、災害情報だけを通知されるように設定しているが、それだけでもダラダラ長くて非常に見づらい。

町長

確かに LINE だと情報量が多いと長くなってしまうので、工夫するように担当者に話しておきます。

【感想】

- 農業高校の特色を出すというのが、とても大事なことだと思う。

名寄高校は4つの高校が合併して市内唯一の高校になったが、市長が東風連駅を移設して名寄高校の目の前に名寄高校駅を作った。それぐらい地域にとって高校というのは、本当にまちづくりの要になるので、中標津農業高校の特色をぐっと摘み取れると素敵だなと思った。

- 初めて参加させていただいた。まちづくりに対して、理想だとかそれに対する現実を生で聞けたのが参加して良かったと思う。自分も加工センターで、ものづくりに携わる仕事をしており、ふるさと納税にも商品を納品している。今日話をこれから活かしていきたい、頑張っていきたいと思う。

- 自分も町を歩いていて、外国人が増えてきているなという感覚はある。ちょうど明治と雪印の工場を増築していて、いろんなプラスになるきっかけがあるので、人口減少という観点で、人口を増やすというのはなかなか難しいとは思いますが、行政には、何とか人が定着するような動きをしてもらえるとありがたいと思いながら今日話を聞いていた。

- 未来の町を担う子どもたちにも、このリアルな「まち懇」の場にぜひ参加してほしいと思った。時間帯などの課題はあるが、子どもたちに町の現状を知ってもらいたい。

計根別の魅力を SNS 等でもっと発信すると、すごく町の力になるのではないかなと思った。学園は農業高校や幼稚園と普段から交流があるが、農高と一緒にいった商品開発の授業では、子どもたちから真剣で面白い発想があった。そういった発想がヒット商品を生む可能性もあるので、今後もコラボしていけたらと思う。

- こんなに地域のためにみなさん考えられてるんだなと改めて知ることができて本当に良かったと思う。また自分も参加して思っていることや意見とか聞いてもらえるということがうれしかった。空港について、札幌に行く新千歳便・丘珠便は本当に充実していると思うが、東京便が足りてないと思う。午前中と午後に便があるといい。せっかく中標津に空港があるのに時間的に利用できないことが多い。新千歳経由でいくとかなり割高になってしまう。東京便を増便してほしい。

- もっと町で中標津をアピールしてほしい。

先日、計根別のモアン山にどうしても登りたいと本州から来た人がいて一緒に登った。夕方から登り始め、夕日が沈むちょっと手前ぐらいまでの1時間ほどをぼーっと景色を眺めて、「これはすばらしい」「何も無いのがいい」と言っていた。中標津は海だけではないが、緑と山とまっすぐな道、それだけでいい。「ぼーっとしているだけでいいんだよ」と言われた。そのへんをアピールできたらと思う。

- せっかく町長、副町長、教育長が来られて話をするのだから、地域で働く人たちが、真剣に町のことを話しあう場所だと思うが、中標津市街の懇談会の参加が数人というのは、人口22,000人の町として寂しいと思う。役場は町の企業の人たちに参加するように声をかける等少しフットワークを軽くしないとダメだ。人づてによる参加の呼びかけをしないと広がらない。他人ごとではないということをみんなで共有しなければいけない。

●自分は年をとっているが、こういう機会に参加させてもらって本当にお礼をいいたい。すごく勉強になった。家にばかりいて何もわからないよりは、こういうところに出て来るのもいいことだと思っている。

●先ほど話に出たモアン山に登って夕陽を見るというのを、例えば『モアン山を登った後、湯宿だいち温泉でゆっくり体を癒しましょうツアー』をふるさと納税の返礼品にしたら、本州の方は食いつくのではないか。食べ物ではなく、そういう地域性を活かしたふるさと納税返礼品も良いと思う。

学園の防災学習に参加させてもらった。ぜひ地域のみなさんに参加してほしい。すごく良い時間だった。その時に一つ気づいたのが学園のソーラーパネルには蓄電施設がないため、夜は結局電気がない状態になる。蓄電施設は設備費用がだいぶ下がってきているのでうまく助成金や補助金を使って、災害時の避難場所として夜も安心してLEDが使える施設というのを要望させていただきたい。

子どもたちの確保について、今ターニングポイントとして、明治乳業ができるということがある。例えば今後、明治乳業で働く若い方たちが家を建てる時に、中標津に建てようかどうかと考える際、家を建てられる土地が計根別にあれば、計根別も候補にあがってくると思うので、今解体している雪印の社宅跡地も宅地として、地域として利活用できていくと非常に良いと思い、ぜひそこも検討していただければと思う。

今回参加しているみなさんは去年と同じ顔ぶれだった。もっといろんな人に参加してもらって町長、副町長、教育長と話を交えられるとすごく良いと思う。自分も周りに声をかけさせていただき、できれば子どもたちにもまちづくりに対して、問題意識をもってもらえると良いと思う。

教育長

全国町村教育長研修会において、計根別学園の地域をあげてのカボチャランタンづくりや新千歳空港での計根別アピールといった実践発表をしたところ、全国の教育委員会から見学希望や資料請求の電話が多数寄せられ大きな反響がありました。

中標津の農業高校は、地元の子どもたちが中心で生徒数を維持している全道でも珍しい学校です。入学してからの生徒の社会性や学力の伸びは著しく、それは先生方がとても努力しているからです。またそれを支えてくれている地域のみなさんの支援があつてこそです。この場を借りて感謝を申し上げます。

しかし、生産物の製造・販売に力を入れると、座学などの他の学習がおろそかになるという難しさがあります。先ほどの酪農関係の授業の充実やシェフの卵を作るといったお話は、これからの農業高校にとって非常に参考になるアイデアですので、整理統合しながら今後の農業高校の学校運営に活かしていきたいと思います。ニセコ高校や音威子府高校のように特色を大きく変えるのか、現在の形を維持し、地元に残る子どもたちを育てていく学校にするのか、熟考しなければいけないと考えています。

ご要望にあった学園の蓄電設備については、防災担当と相談するようお願いします。

副町長

熱心にご提案やご意見をいただき、心よりお礼申し上げます。

今日の話の中にあつた計根別地域でできる具体的な取り組みについて、ごみの関係はできるだけ早く地域の方と相談しながら進めていきたいと思っています。

また、ふるさと納税は町内の事業者の方々のご協力もあり、昨年から大幅に伸びています。新しい返礼品開発や魅力的な製品を組み合わせる等いろいろ考えていただいているので、今後ともご協力をお願いいたします。

計根別地域のまちづくりについて、公園づくりなど昨年も話がありました。やはり計根別の振興計画的なものがないとなかなか話が進んでいきません。土地利用も含めて、具体的なアイデアを地域でまとめ、一つの計画にして、そこへ向かっていくのが一番良いと思います。ぜひ、子どもたちの力も借りながら地域で振興計画策定を進めていただき、町としてそこへ向けて支援していきたいと思います。

町長

昨年に引き続き、今回も多くの方にご参加いただき、活発な話ことができました。やはり計根別は盛り上がっていることを改めて感じました。

市街地での参加者数の少なさは反省すべき点ですが、町全体で盛り上げていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

本日はありがとうございました。